

# 臨春閣

## 保存修理工事のポイント —屋根葺替工事篇—

約5年もの歳月をかけ行われた臨春閣の保存修理事業ですが、文化財建造物の保存修理事業は「変えずに遺していくこと」が求められるため、工事前後で大きな変化は見られません。しかしそこに注ぎ込まれた技術は、今やユネスコ無形文化遺産にも登録された、世界が認める日本の匠の技の数々です(2020年12月登録“伝統建築工匠の技 木造建造物を受け継ぐための伝統技術”★)。工事が終わってすっかり見えなくなってしまった「陰の主演」たちの活躍の痕跡も探してみましょう。



施工前



施工後



檜皮葺屋根施工の様子

第三屋2階 檜皮葺屋根(上層)・柿葺屋根(庇)



柿葺屋根施工の様子



瓦棟施工の様子



施工前



施工後

繋の間 銅板葺(中ほど)・柿葺屋根(手前~右奥)

今回の工事のメインは経年劣化で傷んでいた屋根の葺替。檜皮葺屋根・柿葺屋根の葺替、それに伴う瓦棟の整備修理、その他雨漏りが発生していた銅板葺屋根の葺替も行われました。腕を揮った職人さんの中には20代の若者や女性の姿も。伝統技術を受け継ぐ彼らの研鑽の場としても、今回の工事は重要な意味を持っています。

(★檜皮採取)

★檜皮葺・柿葺 (★屋根板製作)

★屋根瓦葺 [本瓦葺]



銅板葺屋根施工の様子



柿葺屋根施工の様子



20180814(着工前)



20180628



20200316



20210822

葺き替えたばかりの檜皮葺・柿葺の屋根はエッジが効いた稜線と艶やかな色味が特徴。素屋根が外れて雨風・日光に晒され、少しずつ落ち着いた風合いに変化していています。